

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 鳥取県みどりの食料システム推進プロジェクト協議会
都道府県 鳥取県
対象地域 鳥取県全域
対象品目 ニンジン



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

該当するものに●を付してください。

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

マルチ被覆の太陽熱消毒によって化学農薬の使用量削減、作業省力化を図りながら、出荷量増加へと繋げていく

現在の栽培体系

×：防除薬剤、除草剤

●：は種

■：収穫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名				×～×	●～●	×			■	■	■	■	
技術名				土壌消毒	除草剤								



グリーンな栽培体系

□：太陽熱処理

●：は種

■：収穫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名				□□□	●～●	●			■	■	■		
技術名				太陽熱処理									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	67	▶ 67	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	2.09	▶ 18	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	2.09	▶ 18	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	2.09	▶ 18	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 太陽熱処理	雑草発生本数の減少 土壌消毒 作業時間の削減 化学農薬の使用回数の削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	2	▶ 0	A剤1→0回、B剤1→0回に削減
	作業時間（時間）	3.5	▶ 2.0	人数それぞれ合計3人
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

栽培基準を基に栽培指導会や研修会、イベント等で技術紹介を行い、普及・定着化を図る。

関係者の役割

関係者名	JA（JA鳥取いなば、JA鳥取中央、JA鳥取西部）	鳥取県 経営支援課農業普及推進室 鳥取県 農業試験場 鳥取県 各農業改良普及所	鳥取県生産振興課	
役割	技術指導（普及所等と随時連携）	技術指導（JA等と随時連携）	事務手続き等	

その他